

週報

イマジン ローターリー
IMAGINE ROTARY

THE ROTARY CLUB OF FUNABASHI-EAST * 船橋東ロータリークラブ



四つのテスト

言行はこれに
照らしてから

1. 真実か どうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか
どうか

No. 2163号 2023年6月15日発行



青少年交換留学生
エリー・メイ・ホッキングさん



青少年交換留学生候補
長野 楓花さん



JAOS 認定留学カウンセラー
阿部 有紀様



本日のお客様（左から、長野寛子様、長野楓花さん、エリー・メイ・ホッキングさん、阿部有紀様、山崎由起子様、西川典子様）



青少年交換プログラム認証書授与式（長野楓花さん）



第 2163 回例会 2023 年 6 月 15 日（木） 晴 司会 山崎会員

ロータリーソング「それこそロータリー」「四つのテスト」

◎本日の出席状況

出席：23 名（21 名）中 15 名 71.43%

欠席：大原・山本・大家・平山・松本・斉藤（相澤・鯨井）各会員

◎本日のゲスト

- ・国際ロータリー第 2790 地区 1988 – 89 青少年交換学生
JAOS 認定留学カウンセラー 阿部 有紀 様
- ・青少年交換留学生 エリー・メイ・ホッキングさん
- ・青少年交換留学生候補 長野 楓花さん
- ・ホストファミリー 山崎 由起子様・長野 寛子様
- ・名誉会員 西川 典子様

会長挨拶 中村会長

みなさん、こんにちは。本日は、たくさんのお客さまにお越し頂いております。賑やかで嬉しく思います。名誉会員の西川典子様、交換留学生のエリーさんと、派遣候補生の長野楓花さん、ホストファミリーの長野寛子様、山崎由起子様、そして、海外留学協議会認定の留学カウンセラーの阿部有紀様にご来訪頂きました。ようこそ、船橋東ロータリークラブへ。阿部様には、後ほど「私が青少年交換留学に係る理由」と題し卓話をお願い致します。

本日は千葉県民の日で、150 周年を迎えるとの事です。おめでとうございます。明治 6（1873）年 6 月 15 日に当時の木更津県、印旛県の両県が合併して千葉県が誕生したことに由来しています。県では、県民の日を記念して、6 月 15 日を中心に様々なイベントや県内施設などの割引や無料開放を実施しています。我が家の子どもたちは小学校も幼稚園もお休みです。天気が微妙なので、妻がどこに連れて行くか悩んでました。結局は室内の遊技場に行くそうですが、どこも混雑しそうですね。

今回の会長挨拶は、『一生の終わりに残るのは、自分が集めたものではなく、自分が与えたもの』
シスター 渡辺和子さんが残した言葉をお話したいと思います。

渡辺 和子さん（わたなべ かずこ、1927 年 2 月 11 日－2016 年 12 月 30 日）は、キリスト教カトリック修道女（修道女名：シスター・セント・ジョン）。学校法人ノートルダム清心学園理事長。北海道旭川市生まれ。2016 年 12 月 30 日、膵臓癌により死去。89 歳没

2012 年に発売した著書『置かれた場所で咲きなさい』が、200 万部を超えるベストセラーとなり 2014 年 1 月－2017 年 5 月カトリック教会が送りするテレビ・ラジオ番組「心のともしび」に出演。

計 24 回にわたり「今日の心の糧」で朗読されました。

- (1) 人に生きがいを与えるほど大きな愛はなく、人から生きがいを奪うほど残酷なことはない。
- (2) 大切なのは宝石に見せかけることなく、宝石になる努力を惜しまないことだ。
- (3) 好きな人は愛しやすいが、嫌いな人の価値を認めるためには、時に英雄的な努力を必要とすることがある。

- (4) 何かをなさっている時にフッと思い出して、「ああそうだ、これをあの人のためにしよう」と思ってください。誰かのために何かができる。
- (5) 仏頂面をして、他人の暮らしまで暗くする権利はない。不機嫌は、立派な環境破壊。
- (6) 大切なものは目に見えない。肝心なことは心の目で見なくちゃ見えないんです。
- (7) 大切なのは「人のために進んで何かをする」こと。「人に迷惑をかけない」からもう一歩進んで、「手を差し伸べる」気持ちが愛の実践につながる。
- (8) 不要な枝葉を切り落とし、身軽になること。維持や執着を捨てて素直になること、他人の意見に耳を傾けて謙虚になることが成熟ということ。
- (9) 何かを失うということは、別の何かを得ることでもある。今日より若くなる日は無い。今日という日を私の一番若い日として輝いて生きて行こう。
- (10) ほほえみを忘れた人ほどそれを必要とする人はいない。相手の出方に左右されることなく私の人生を笑顔で生きるという決意。
- (11) 一生の終わりに残るものは、自分が集めたものではなく、自分が与えたもの。
- (12) 私たちの毎日毎日は、後戻りすることができない、やり直しのきかない人生だという感覚で生きることが大事なのです。
- (13) いい出会いをするためには、自分が苦勞をして出会いを育てなければならない。
- (14) いのちは大切だ。と、言われるより、あなたが大切だ。と、言われた方が生きてゆける。
- (15) 目立たない仕事をしている人へのあいさつを忘れてはいけない。私たちはお互いに「おかげさま」で生きているのだから。

以上の中で、みなさんの心に刺さった言葉はありましたでしょうか？

相手を思いやって過ごす事ができれば、平和で穏やかな幸せな日々が続くと思いました。

本日、事務局の東さんはお休みを頂いております。お父様の手術の立ち会いだそうです。

手術の成功をお祈りしたいと思います。

幹事報告 水庫幹事

1. 次週6月22日(木)は夜間移動例会です。本日締切ですので出欠のお返事がまだの方は、行方親睦委員までお願い致します。
2. クラブ米山委員長セミナーのお知らせ
日 時：2023年7月8日(土) 13:30 受付開始 14:00 点鐘 16:00 閉会
場 所：三井ガーデンホテル千葉
登録料：3,000円
出席対象者：次年度クラブ米山委員長
3. 2022 - 23年度4月のMCRレポートが届きましたので回覧致します。
4. ロータリー青少年交換学生募集のお知らせ
短期交換&長期交換プログラムの募集。 締切：2023年8月10日(木)

◎各委員会報告

青少年交換留学生 エリー・メイ・ホッキングさん / 青少年交換留学候補生 長野楓花さん



本日の卓話 「私が青少年国際交流に関わる理由」 阿部 有紀様

私にできる国際支援と青少年国際交流サポート
～ロータリー国際交流の魅力とホームステイ～

2790 地区 1988-89 青少年交換学生
JAOS 認定留学カウンセラー
阿部有紀

船橋東ロータリークラブの皆様、

初めまして、阿部有紀と申します。大神宮に程近い産院で生まれ、峰台小学校、宮本中学校、そして市立船橋高校へと進学いたしました。生まれ育った地、船橋のロータリークラブで本日お話をさせて頂けることをとても嬉しく思います。

高校2年生の時に、ロータリー青少年交換学生として、船橋ロータリークラブより1年間カナダのノースバンクーバー(ホストクラブ Lions Gate RC)に留学させて頂きました。ロータリー交換留学生としての経験が、私自身を、そしてその後の人生を変えるきっかけになったといっても過言ではありません。

自分自身の留学経験に加え、子ども達3人皆が長期留学経験を持つ母親でもあり、[一般社団法人海外留学協議会(JAOS)認定 留学カウンセラー]としての資格を取得し、現在は無償ホストファミリーとしてボランティア活動をしています。

本日最初お話しするのは、「ロータリー青少年交換留学だから得られるもの」

それは、一言でいえば、「人と人とのつながり」だと確信しています。

17歳でカナダへ留学し、帰国してから35年が経ちましたが、当時のホストファミリーとは今なお本当の家族のような関係を保ち続けており、その関係は子ども達同士にも広がっています。また、派遣先では、カナダ人の学生だけでなく、同じロータリー地区に派遣された世界中の交換留学生、そして、国内にも2790地区の同期派遣生やその先輩後輩という、本当にたくさんの魅力的かつ個性的な人たちに出会いました。「世界中にいる大切な友達」、彼らとの深い絆は、ロータリー青少年国際交換プログラムだからこそ得ることのできる貴重な宝物です。



左:カナダからの
交換生 Sarah

右:34年後の
Sarah と両親

さて、ここで皆様にひとつ質問をさせて頂きたいと思います。

「ホームステイとは何だと思えますか？」

これは、ある留学エージェント(留学斡旋会社)の社長さんからの質問です。

私の経験から言えば、ホストファミリーは本当の家族のような存在であり、留学生活において最も重要な要素です。ホストファミリーの支えがあれば、留学中のどんな困難も乗り越えられると信じています。しかし、その社長さんは紙に樹木を描き始め、「それは、木の小枝部分の話。木の幹の部分は、毎日食事の心配もせずに済み、毎晩安全に寝る場所が確保されている。それだけでも、ホテル滞在よりどれほど良いか。ホームステイにおいては、それだけで十分だ。」と。

私の思う「ホストファミリーの定義」と海外の「ホストファミリーの実態」は異なるのかもしれない。確かに、海外ではビジネスとしての側面も存在し、ホームステイには収入源としての役割があるのも事実です。実際、海外のホームステイ代は通常1人あたり1ヶ月10万円以上であり、複数の学生を受け入れれば、収入源としてそれだけでも生活が成り立ちます。けれど、日本では未だボランティアが主流であり、それでも殆どのホストファミリーは「責任感」と「おもてなしの心」を強く持って留学生を迎え入れています。それは「日本人の美德」のように思います。

私がボランティアのホストファミリーとして留学生を我が家に迎え入れる理由は3つあります。

一番大きな理由は、これが今の私にできる国際支援だと思うからです。今の自分があるのは全てロータリー交換留学によるもの、その思いから、留学を支援してくれた全ての方々へのご恩を返す気持ちで、私は留学生を受け入れています。

次に、きっと自分の子ども達も留学中に困ったことがあった時には、現地でいろいろな方々に助けってもらってきたのであろう、という感謝の気持ちからです。

そして最後に、留学生を受け入れることは、子ども達にとって貴重な経験になると信じています。国際交流を楽しみながら、国際的な視野を広げるきっかけとなれば…との思いです。

これは、8年前に我が家にホームステイしたフィンランドからの留学生、ローサの話です。ある日、「ホームステイ先が見つからず、ボランティアでの受け入れ先を探している」という連絡がありました。このまま受け入れ先が見つからなければ、彼女の留学が実現できない可能性があること知り、受け入れを断る選択肢はありませんでした。彼女の一番の日本語の先生は当時小学2年生の末娘、学校から帰ってくるとローサはいつもリビングにいて、時間のたっぷりある末娘と常に戯れて遊んでいました。そのおかげで彼女の日本語力は上達し、帰国後には日本語能力検定にも合格するほどでした。

そんな彼女に、私はとても寂しい思いをさせ、それと引き換えに大切なことを気づかせてもらったことがあります。

私自身のカナダ留学では5ヶ所のホストファミリーと滞在し、それはカナダの習慣や文化を理解する上で、とても良い経験になりました。その思いから、ローサには「他のファミリーとの生活も彼女自身のためになる」と提案しました。あまり日本の観光名所に連れて行ってあげられていないことも、私の中ではずっと引っ掛かっていたのです。新しいホストファミリーへと引っ越した後、彼女がたくさんの観光名所を訪れている姿を見て、私は「自分の選択が正しかった」と感じました。しかし、彼女が帰国の途につく時「日本で一番楽しかった時間は、阿部家のみんなでテレビを見たり、リビングのソファで兄妹ふざけ合いながら場所の取り合いをしたり、私はその時間が一番好きだった」と。いつも「ローサをどこかに連れていかなきゃ」との思いが自分の中で徐々に負担になり、いつしかストレスになっていたのかもしれませんが、けれど、ローサが何よりも一番望んでいた事は、「日常の家族の時間」であり、週末毎の観光ではありませんでした。

「私はツアーコンダクターではなく日本のお母さん。そして、留学生の目的は観光旅行ではなく国際交流と日本での異文化体験だ」と再認識しました。気負いすぎず、留学生を「お客様」ではなく「**家族の一員**」として迎え入れていくことが重要だと感じています。



私がホームステイの話をする、「ホストファミリー？留学生の受け入れ？？うちは無理！無理！」と言われることがあります。ぜひ経験してみてください。特に小学生をお持ちのご家庭なら、お子様たちは多くのことを学び、大きく成長するでしょう。そんなに小さなうちから国際交流を経験できるなんて、本当に素敵で、とても貴重な経験になると思いませんか？

ローサを我が家に迎え入れた時 小学2年生だった娘は、今年高校生になりました。中学生の時にはカナダでの留学経験もあり、バスケットボールで州チャンピオンシップに出場し、幸福に関する心理学も学びました。娘にそのきっかけを与えてくれたのは、「世界幸福度ランキング」1位であるフィンランドからのローサ、そして下位5位以

内に入っているアフリカからの男子学生の受け入れ経験であり、「日本はどうなのだろう？ どうしたら、世界それぞれの国の人々が、同じように幸せだと感じることができるのだろうか？」との思いからです。小さな頃からのホームステイ受け入れ経験が、このように外国に興味を持ち、世界に目を向ける事への第一歩になりました。

最後になりますが、私の留学中に、大好きなホストマザーから言われた忘れられない言葉があります。

「もしこの先、世界でどこかの国同士が仲の悪くなるようなことがあったとして、そしてもし誰かが日本を悪くいう人がいたとしても、私は、日本は素晴らしい国だと伝えたい。そして、私は日本には一度も行った事はないけれど、私は日本が大好きだと言える。それは何故か？ 私にとっての日本、その全ては Yuki、貴方だから」

“I am all of Japan to them.”私はこの言葉を心に留め、自分の行動が外国の方々にとって「日本」として映ることを自覚しながら、これからも私にできる国際支援、そして青少年の国際交流サポートを続けていきたいと思います。

本日は、お時間を頂きありがとうございました。



- 西川さん、お元気そうで何よりです。たまにはクラブにお顔を見せて下さい。 織戸 豊
- 今年度も残り少なく山崎ガバナー補佐、中村会長、水庫幹事、本当にお疲れ様でした。数々の成果を挙げられ素晴らしい年度でした。ありがとうございました。 名誉会員 西川 典子
- 本日はたくさんの皆様に例会ご参加頂きました。ありがとうございました。 中村 和一
- 阿部様、ロータリーの交換留学生だったんですね。素晴らしいお話ありがとうございました。 岡田 敏男
- 阿部有紀さま、本日は国際交流についてのお話、実際体験談について楽しく聞かせてありがとう。ごくろうさまです。 水庫 直子
- 阿部様、国際交流の貴重な体験談をありがとうございました。素晴らしいお話でした。 亀山 雅章
- 阿部有紀様 本日は貴重なお話ありがとうございました。 織戸 豊
- 阿部さん、本日は貴重な卓話ありがとうございました。若い人にどんどん海外に出してあげて下さい。背中を押す人が必要なんです。がんばって下さい。 織戸 豊
- 阿部さん、ホストファミリーとしての気づきをたくさん頂きました。たしかに。なるほど。と思えることばかり。ありがとうございました。 長野 春信・寛子

- 阿部有紀様「人と人との繋がり」の青少年交換留学のお話、貴重でした。ありがとうございました。

山口 習明

- 阿部有紀様「私が青少年国際交流に関わる理由」卓話、ありがとうございました。

今後も留学生のサポートを宜しくお願い致します。

山崎 新一

- 阿部有紀様「多感な青春の遺産」から国際交流の卓話に感謝。

遠田 毅

- 阿部さん、ロータリー交換留学から始まった国際交流が数十年経っても、つながっていることに感動しています。

山崎由起子

- 「りん」31号の原稿よろしくお願ひします。

藤井 仁毅

今週のニコニコBOX

6月15日 22,000円

累計 738,000円

6月のプログラム

6月22日(木) 夜間(移動)例会
 場所:ふなぞう
 時間:受付18:00 点鐘18:30

29日(木) 今年度最終例会乾杯
 各委員長 活動報告発表
 新旧会長幹事バッチ交換
 新役員の宣誓式

週報今週の担当 行方

近隣クラブ例会日

月曜日 千葉クラブ (三井ガーデンホテル千葉)
 火曜日 船橋クラブ (クロス・ウェーブ船橋)
 船橋みなとクラブ (日本料理 稲荷家)
 八千代中央クラブ (ウィシュトンホテル ユーカリ)
 四街道クラブ (四街道ゴルフ倶楽部内)
 水曜日 習志野クラブ (習志野商工会議所会館)
 船橋南クラブ (市川 料亭 栃木家)
 印西クラブ (柏屋)
 東京城東クラブ (ロッセ会館)
 木曜日 習志野中央クラブ (習志野商工会議所会館)
 鎌ヶ谷クラブ (鎌ヶ谷カントリークラブ)
 金曜日 船橋西クラブ (野村証券株 5F)
 千葉南クラブ (オークラ千葉ホテル)
 八千代クラブ (公園都市プラザ内 レストラン・パッシノビータ)
 浦安クラブ (東京ベイ舞浜ホテルクラブリゾート)